

中池・大池 ハザードマップ

このハザードマップは、万が一の事態でため池が決壊した場合、最大でどの程度の被害範囲となるかを知るために、最悪の状況を想定した被害予測によるものです。なお、重ねため池については、上流側のため池決壊により、下流側のため池も連続的に破堤した場合を想定しています。

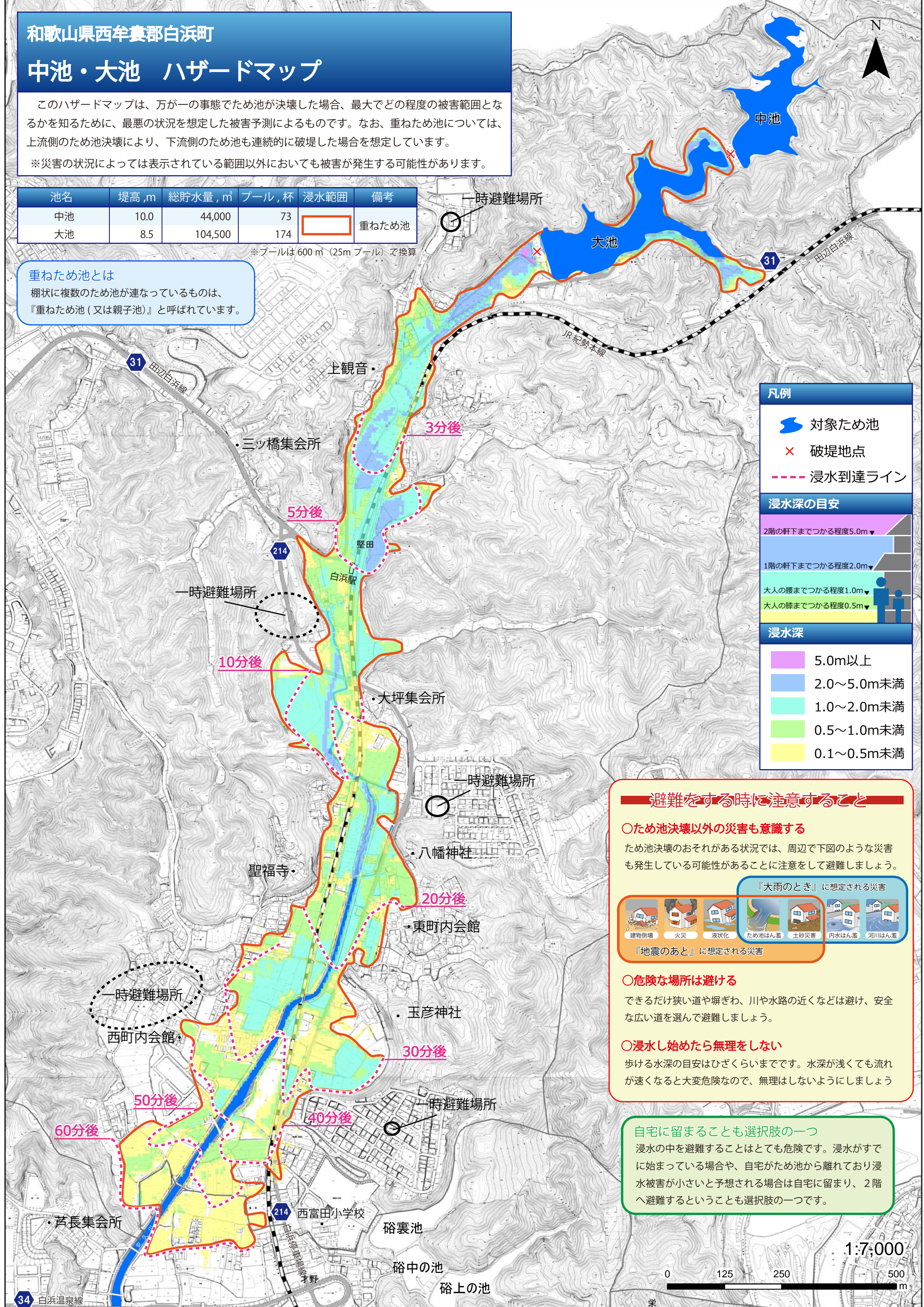
※災害の状況によっては表示されている範囲以外においても被害が発生する可能性があります。

池名	堤高,m	総貯水量,m ³	プール,杯	浸水範囲	備考
中池	10.0	44,000	73		重ねため池
大池	8.5	104,500	174		

※プールは600m(25mプール)で換算

重ねため池とは

棚状に複数のため池が連なっているものは、『重ねため池(又は親子池)』と呼ばれています。



凡例

- 対象ため池
- 破堤地点
- 浸水到達ライン

浸水深の目安

- 2階の軒下までつかる程度5.0m
- 1階の軒下までつかる程度2.0m
- 大人の腰までつかる程度1.0m
- 大人の膝までつかる程度0.5m

浸水深

- 5.0m以上
- 2.0~5.0m未満
- 1.0~2.0m未満
- 0.5~1.0m未満
- 0.1~0.5m未満

避難をする時に注意すること

- ため池決壊以外の災害も意識する
ため池決壊のおそれがある状況では、周辺で下図のような災害も発生している可能性があることに注意して避難しましょう。

『大雨のとき』に想定される災害

- 建物倒壊
- 火災
- 液状化
- ため池はん濫
- 土砂災害
- 内水はん濫
- 河川はん濫

『地震のあと』に想定される災害

- 危険な場所は避ける
できるだけ狭い道や塀ぎわ、川や水路の近くなどは避け、安全な広い道を選んで避難しましょう。
- 浸水し始めたら無理をしない
歩ける水深の目安はひざくらいまでです。水深が浅くても流れが速くなると大変危険なので、無理はしないようにしましょう

自宅に留まることも選択肢の一つ
浸水の中を避難することはとても危険です。浸水がすでに始まっている場合や、自宅がため池から離れており浸水被害が小さいと予想される場合は自宅に留まり、2階へ避難するというのも選択肢の一つです。